

おたふくかぜワクチンの定期接種化を求める意見書

おたふくかぜは、流行性耳下腺炎あるいはムンプスとも呼ばれ、ムンプスウイルスの感染によって起こる感染症で、一般的に、子どもの軽い病気とあなどられがちであるが、中には重症化し後遺症を残すこともある。

本年、日本耳鼻咽喉科学会が、全国の耳鼻科約 5,600 施設を対象に（回答率 64%）、平成 27 年から 2 年間のおたふくかぜの難聴への影響について調べた。子供を中心に流行するおたふくかぜ（流行性耳下腺炎）にかかり、一時的なものも含め、難聴となった人が 2 年間で少なくとも 336 人に上ることが判明。そのうち、約 8 割の 261 人が高度の難聴になっている。また、両耳とも難聴となった 14 人中 11 人が日常生活に支障が出ており、補聴器や人工内耳埋込手術を受けている。

同学会によると、海外では麻疹風疹おたふくかぜ（MMR）ワクチンの 2 回接種が小児の定期接種に導入されている国が多く、ワクチンの効果によりおたふくかぜの患者数は激減しており、先進国でおたふくかぜワクチンが定期接種化されていない国は日本だけになっている。現在、任意接種となっている同ワクチン接種率は 30～40%と低迷しており、ワクチンの定期接種化により、まず接種率を上げ、おたふくかぜの患者数を減少させることが必要である。

よって、国においては、医学的、医療経済学的、公衆衛生学的観点から、一刻も早いおたふくかぜワクチンの定期接種化を要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により提出する。

平成 29 年 10 月 6 日

静岡県焼津市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
財務大臣
総務大臣
厚生労働大臣

様